

## 1. 将来の環境経営について

### ■外部環境の変化（今後10年間で想定されるもの）

- ＜新興国の成長＞
- ＜資源エネルギー使用量の増大、資源価格の高騰＞
- ＜気候変動、水、生物多様性、環境の重要性増大＞
- ＜国際枠組みの進展、規制の導入強化＞
- ＜経済的手法、市場メカニズムの活用＞
- ＜消費者、マスゴミの関心増大＞
- ＜技術、イノベーションの進展＞
- ＜環境配慮製品の開発普及＞

### ■内部環境の変化（今後10年間で想定されるもの）

- ＜環境変化に対応した経営戦略＞
- ＜サプライチェーンでの取組＞
- ＜トータルなマネジメントの必要性＞
- ＜組織体制の整備＞
- ＜人材育成＞

# アンケート結果の概要

---

## 1. 将来の環境経営について

### ■企業の抱える課題

- ＜グローバル化への対応＞
- ＜戦略の方向性＞
- ＜組織管理上の対応＞
- ＜社内の意識改革＞
- ＜法規制への対応＞
- ＜環境情報開示における課題＞
- ＜コストと経済的ベネフィット＞

### ■企業として実施すべき事項と対応策

- ＜変化への対応力強化＞
- ＜長期ビジョン、目標の明確化＞
- ＜戦略的環境経営の強化＞
- ＜多様なステークホルダーとのかかわり＞
- ＜政府当局への働きかけ＞

# アンケート結果の概要

---

## 2. 企業の環境情報開示について

### ■ 将来（10年後）の企業の環境情報開示において求められる事項

- ＜企業経営に与える影響＞
- ＜中長期ビジョン＞
- ＜経営戦略と環境情報との結びつき＞
- ＜財務情報への影響＞
- ＜定量的な情報＞
- ＜気候変動・資源・リサイクル・生物多様性＞
- ＜サプライチェーン＞

### ■ 企業の環境情報開示における課題や留意事項

- ＜透明性・信頼性の確保＞
- ＜比較可能性の確保＞
- ＜国際的な動向との整合性＞
- ＜環境情報開示の位置づけの整理＞
- ＜開示基準の整備＞
- ＜信頼性確保のための仕組みづくり＞
- ＜サプライチェーンのデータ収集＞
- ＜データ分析システムの確立＞

# 有用な環境情報開示に関連する事項（案）

## 「有用な環境情報開示の方向性」とは

- 有用な環境情報開示とは、持続可能な社会の構築に向けて目指すべき環境経営の方向性に対して、企業の環境経営の方向性と進展度合いを評価できる情報開示であり、事業活動の成長と環境負荷の低減に資するものである。
- 環境情報の範囲は、経営理念、環境取組、環境に係るガバナンス・体制など企業の環境取組に係るすべての情報を含む。

- 企業経営者が考える環境経営の方向性（中長期ビジョン、目標）
- 企業の全体像における環境取組の位置付け
- 経営者の視点による環境経営と事業戦略の分析的な説明
- 将来予測情報
- リスクとチャンス（新技術、研究開発など）・その対応状況
- 重要な環境負荷（気候変動負荷、水、生物多様性、資源、土地利用、化学物質）とその取組状況
- 資源生産性の観点からの、企業活動のトータルなマネジメント
- 環境負荷及び環境パフォーマンスに関する絶対量及び原単位等の両方による表示
- 環境負荷及び環境パフォーマンスについての分析と評価
- 環境負荷の状況及び環境取組と財務影響との関連性
- サプライチェーンマネジメントやLCAに基づく環境影響の把握、測定
- トレードオフを回避した全体最適化を図る取組み

# アンケート結果の概要

---

## 3. 環境経営と環境情報開示の促進策について

### ■グローバル企業や大企業の環境取組を適正に評価するための促進策

#### <基盤整備>

- 国際制度作りへの積極的参加
- 開示基準の整備
- 海外情報開示のための体制づくり
- 英語による海外への情報発信
- 情報開示制度の導入
- 環境格付け制度の創設
- 開示情報保証制度の構築

#### <人材育成>

- 人材キャリアアップ制度の創設
- 国際ネットワークの構築
- 人的交流

#### <その他>

- 環境税の活用
- 先駆的評価の活用

# アンケート結果の概要

---

## 3. 環境経営と環境情報開示の促進策について

### ■新興国・発展途上国への環境経営及び情報開示の普及における日本（国・企業）の役割や促進策

#### <基盤整備>

- ガイドライン策定支援
- サプライチェーンでの環境負荷低減
- 情報開示等の体制構築支援
- データベースの共有化

#### <人材育成>

- 環境教育の実施

#### <その他>

- 日本基準の活用への積極的働きかけ
- 途上国の環境取り組みを支援（資金・技術）
- 情報開示規制の先行導入

# 環境経営と環境情報開示の促進策について

## 【本日の議論のテーマ】

テーマ	意見(抜粋)
努力している企業が適正に評価され、メリットを得られるような施策(グローバル展開を行う大企業も含む)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ グローバルに通用する環境経営評価機関の育成や指標に関するルールづくり</li><li>・ ITを利用した環境情報に関わる基盤整備(環境情報管理システムの開発、環境情報データベースの共有化等)</li><li>・ コア情報に限定した指標一覧の策定</li><li>・ 優れた環境取組の公共調達における基準への追加</li></ul>
サプライチェーンを通じた環境取組促進を拡大させるような施策	<ul style="list-style-type: none"><li>・ サプライチェーンを通じた環境経営・情報開示の協力体制構築</li><li>・ 環境経営に関するアドバイザーの育成支援(環境への取組が経営にもメリットがあることを伝えられる人材の育成)</li><li>・ 環境情報の開示企業へのインセンティブ付与策</li></ul>